

大谷フィーバーが続いている。今や彼は大リーグファンの、いや、アメリカの心そのものをわしづかみにしていると言っても過言ではない。それには決定的理由が幾つかある。実はアメリカで大リーグ野球を見ない人は多い。長〜い試合時間、選手交代の展開の遅さ、チケットの高騰、生え抜き選手の少数化と色々あるが、度重なるドーピング問題は熱心なファンさえも幻滅させた。

そんな折、大谷君はたった2億6000万円でメジャーへやって来た。「25歳になってから来ればいいのに」とファンのみならずメディアも驚いた。25歳未満でドラフト対象外の外国人選手の契約金上限が575万ドル（約6億円）という「25歳ルール」のため、契約金と年棒を跳ね上げるために日本で実績を積んでおこうという球団や代理人の思惑も働き、特に代理人はパーセンテージで報酬を得るので、ヤンキースの田中将大投手のような7年契約で約160億円などの大型契約には一攫千金のウマミがある。

しかし、彼は「金ではない」。高給になびき人気選手がコロコロとチーム先を変える現状に辟易していたアメリカ人たちは、大谷君に今や失われつつある純粋な野球愛を見出したのだ。まだある。これまでメジャーに渡った日本人選手らは、FA権の問題もあり10年程度の経験を持つ“ベテラン”だったのに対し、まだ彼は若く、まるで“野球少年”だ。天才肌の人間にありがちな尖がった雰囲気がなく、時おり見せるオチャメな言動に「すごくカワイイ！（He is so cute!）」。さらには「エンゼルスファンではないが、オータニの出る試合は欠かさず見よう」と言う人たちも。イエスは言う。

「子供のように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。」

マタイの福音書18章4節。

子供にも罪はあるし、何といっても未熟だ。だが自分の夢に正直でまっすぐだ。陰口を叩いたり、あれこれ策を用いたりせず、純粋でまっすぐに歩み、イエスと人に好かれる可愛げのあるキリスト者でありたい。

2018-5-25

